

日常生活動作から

身体運動のメカニズムを考える

— 立ち上がり動作の分析からみた下肢筋力測定法の開発 —

東京大学大学院総合文化研究科
身体運動科学研究室 准教授

講師

吉岡 伸輔 氏



《プロフィール》

- ・ 1979年(昭和54年) 大阪府 生まれ。
- ・ 趣味はスキー、ゴルフ、工作
- ・ 高校までは工作大好き人間
- ・ 大学ではスキー部に入り、トレーニングに明け暮れる毎日を過ごす
- ・ トレーニングを発端として運動について勉強を開始。
- ・ 興味が物作りからスポーツへ変わり、工学部から身体運動科学に学ぶ分野を変更
- ・ 現在は家族とスキーに行くのが何よりの楽しみ

《経歴》

- 2003年 東京大学工学部 卒業
- 2005年 東京大学大学院総合文化研究科 修士課程 修了 修士(学術)
- 2008年 東京大学大学院総合文化研究科 博士課程 修了 博士(学術)
- 2008年 東京大学大学院総合文化研究科 特任研究員(深代研究室)
- 2010年 立命館大学スポーツ健康科学部 助教
- 2013年 東京大学大学院総合文化研究科 准教授

学会等で受賞多数

- ・ 日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス部門 第21回FANシンポジウム プレゼンテーション賞
- ・ 公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団 平成21年度特別チャレンジャー賞
- ・ 第19回日本バイオメカニクス学会大会 奨励賞

日時

2017年

7月5日(水)

17:00 ~ 18:30

場所

豊田キャンパス
14号館 2階
大会議室

吉岡氏の専門分野はバイオメカニクスです。クロスカントリースキー滑走動作の分析や、ジャンプ動作のコンピュータ・シミュレーションなどを手がけてきました。一方で、日常生活の中で何気なく行われている動作にも目を向けています。今回は下肢への力学的負荷という観点で行われた椅子からの立ち上がり動作に関する研究を紹介していただきます。

立ち上がり動作は、日常生活の中で下肢への負担が最も大きい動作の一つです。そのため、日常生活に必要な下肢筋力を見積もることに役立ちます。その結果に基づき下肢筋力の測定機器や評価法を開発してきました。

例えば、身体組成計で推定される内臓脂肪量や、健康診断での血液検査結果など、普段は見えない、感じられないものが可視化される時、人々の意識は高まり行動変容が生じます。行動変容を起こせる評価法を作るべく研究を進めています。本講演ではそのような一連の取り組みについて紹介していただきます。

多くの学生・大学院生・教職員・一般の方のご来聴をお待ちしております。※申込不要